第３　情報伝達

災害時対応に失敗する原因で最も多いのは情報伝達の不備であり、平素から情報伝達の手段、内容、方向、種類等を理解し状況に応じた効果的な情報伝達を行う。

１　災害時における情報伝達手段とその特性

手段		設置場所	特性	
公共	テレビ	病院災害対策室	災害情報がリアルタイムで聴取できるも停電時には使用できない。	△
	ラジオ	病院災害対策室	災害情報がリアルタイム、かつ、同報的に伝達できる。	◎
病院外との情報伝達	ＥＭＩＳ	病院災害対策室	災害情報・医療機関被災状況・ＤＭＡＴ活動状況が伝達かつ聴取できるも、ＰＣ、インターネット環境が必要	○
	固定電話（外線）	部長室 集中治療室	個別に情報伝達ができるも被災時は電話会社の規制・停電・配線断線等により使用不可の場合あり	△
	ファックス	部長室 集中治療室	情報量が多く確実に伝達できるも被災時は電話会社の規制・停電・配線断線等により使用不可の場合あり。	△
	携帯電話（外線）		個別通話ができるも被災時は電話会社の規制により通話困難	×
	携帯電話（メール）		一斉通信、個別通信ができ、情報伝達が確実もアクセス件数が殺到する可能性あり。	○
	携帯電話（非常用）	病院災害対策室 ＣＳ	個別通話ができ、情報伝達が確実であるも情報伝達量に限度あり。	◎
	衛星電話	病院災害対策室	個別通話ができるも、使用場所に制限あり。屋内使用不可のため、屋内使用時にはアンテナ設置が必要	◎
	ＭＣＡ無線	病院災害対策室	個別通話、一斉通信双方できるも屋内では電波受信状態が悪い。屋外では遠距離通話可能	◎
	愛知県医師会業務無線	集中治療室	個別通信できるも単信のため、情報伝達が不確実になる恐れあり。情報伝達量にも限度あり。	○
	名古屋市防災行政無線	集中治療室	個別通信できるも単信のため、情報伝達が不確実になる可能性あり、情報伝達量にも限度あり。	○
病院内での情報伝達	イントラネット （インフォメーション）		情報伝達量は多く、確実性もあるが停電・配線断線等により使用不可の場合あり	○
	トランシーバー、 ５Ｗ無線	病院災害対策室 各班	個別通信できるも単信のため、情報伝達が不確実になる可能性あり、情報伝達量にも限度あり。	○
	ＭＣＡ無線	病院災害対策室	個別通話、一斉通信双方できるも屋内では電波受信状態が悪い。	○
	内線電話		個別に情報伝達ができるも停電・配線断線等により使用不可の場合あり	○
	ＰＨＳ（内線）		個別に情報伝達ができるも停電・配線断線等により使用不可の場合あり	○
	館内放送	防災ｾﾝﾀｰ	院内に対して一斉通知できるも伝達確認はできず	○
	ハンドマイク拡声器	防災ｾﾝﾀｰ	一斉通知できるも伝達領域に限度がある。	○
	非常ベル		緊急時を認識させるがパニックになる可能性あり	○
	笛		来院者等の誘導に効果的だが意図が伝わりにくい	○
	伝令（口頭）		確実に伝わるも伝達事項の記録が必要	○
	伝令（様式）		一定量の情報が確実に伝達される	◎

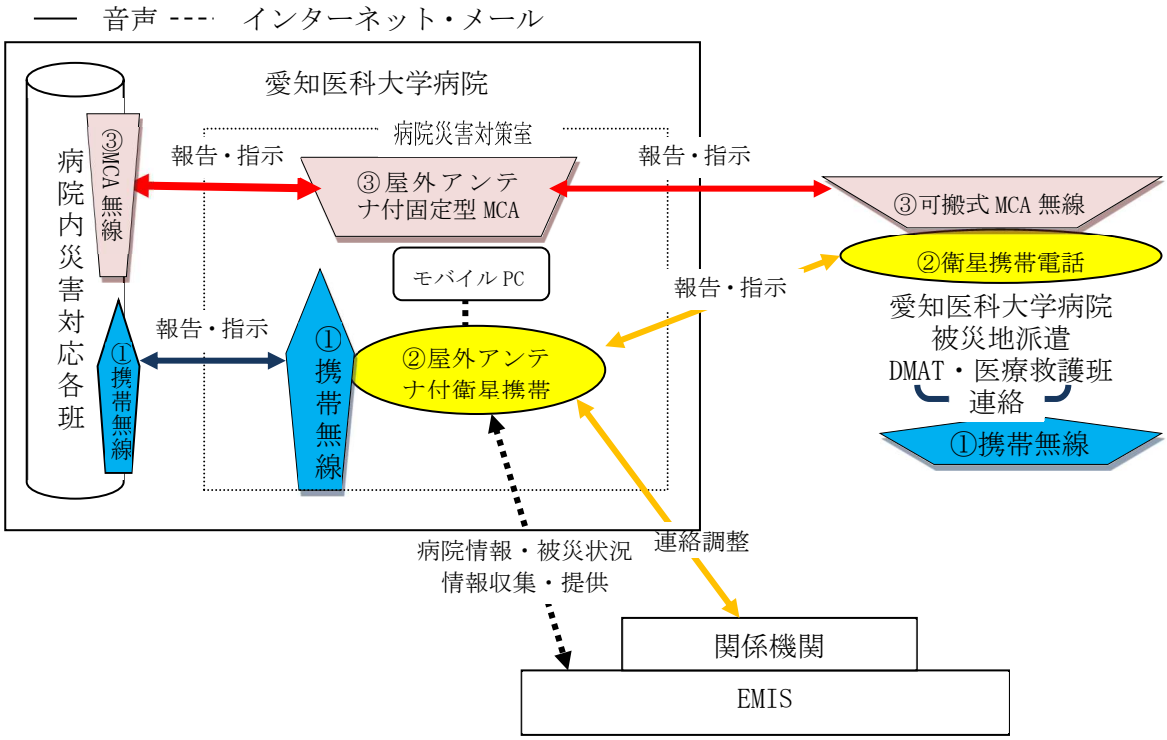
2　報伝達の方向性と内容

発信者	受信者	内容	情報手段
病院災害対策室	各班長	災害種別の通知	イントラネット 一斉メール、 館内放送
各班長	病院災害対策室	職員の安否状況 職員の参集状況 入院患者の安否状況 建物被災状況 ライフライン状況 通信機器の状況	様式報告 （イントラネット、 伝令、ファックス） 口頭報告 （内線電話、ＰＨＳ、無線トランシーバー、ＭＣＡ無線）
病院災害対策室	各班長	使用可能情報手段の通知 病院被害状況の通知 災害概要の通知 災害対応方針の周知	イントラネット 一斉メール 館内放送 ５W無線、ＭＣＡ無線、 内線電話、ＰＨＳ
病院災害対策室	愛知県	病院機能の経時的報告 域外搬送有無の報告	EMIS 衛星電話 非常用携帯電話 愛知県医師会無線
救急医療班	病院災害対策室	来院患者の状況 重症患者の状況 中等症・軽症患者の状況	患者集計表 （イントラネット、伝令）
		器材・人員の増強 活動状況 患者状況	衛星電話、内線、 ＭＣＡ無線、５W無線 トランシーバー、伝令
病院災害対策室	救急医療班	搬送先医療機関情報 搬送先 SCU 情報 DMAT 応援状況 搬出患者情報	衛星電話、内線、 ＭＣＡ無線、５W無線 トランシーバー、伝令
各班	病院災害対策室	職員の安否経時的変化 職員の参集状況 在院患者の経時的状況 建物被災の経時的変化 ライフライン経時的変化	様式報告 （イントラネット、 伝令、ファックス）
病院災害対策室 各病棟班	入院/外来患者、家族	避難誘導	館内放送 ハンドマイク 笛

3　非常時通信ネットワーク

固定電話、ＰＨＳ、携帯電話の使用不能時には非常時通信ネットワークを設置し、病院災害対策室と各班、関係機関、外部派遣者との通信を確保する。

【愛知医科大学病院非常時通信ネットワーク概要】



4　非常通信ネットワーク通信機器の使用法

①トランシーバー・５W携帯無線

【使用対象】

病院災害対策室⇔各班、各班同士の通信

【準備】

① 電源を入れる

② モニターボタン(MON)を長押し電源ボタンで音量を調節する

③ 電池の残量を確認する（モニター画面）

④ チャンネルを合わせ、F ボタン長押しでロックする

⑤ コールサインを確認する

⑥ 感度を確認する

【通話方法】

- 会話は１０秒以内、ゆっくり話す
- 必ず送信者名を名乗り、交信先を指定する
- 交信の終わりには、「どうぞ」
- 用件の終わりには、「以上」
- 相手からの内容は、復唱確認、「了解」
- 聞き取れないときは、「くり返しどうぞ」

② 衛星携帯電話

【使用対象】

病院災害対策室⇔関係機関

病院災害対策室⇔派遣DMAT･派遣医療救護班

派遣DMAT･派遣医療救護班⇔関係機関

（ドコモワイドスターⅡ）

【準備】

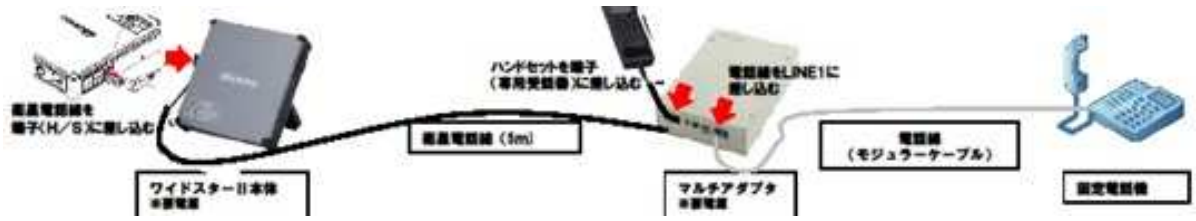
① アンテナ方向調整　南　45 度

② 通信方法は携帯電話と同じ

③ ルーターを接続することによりインターネット通信可能

④ インターネットと音声との同時通信は不可

【ワイドスターⅡ衛生電話と固定電話の接続】



【ワイドスターⅡ衛生電話回線を利用したインターネット】

（インマルサットＢＧＡＮ　Explorer700）

【準備】

① アンテナ方向調整　：　南 45 度

② 通信方法

固定電話、携帯電話との通信

送信：00－81－相手先番号の最初の０を除いた番号

受信：010－870－インマルサット番号

③ インターネットと音声との同時通信可能

③ ＭＣＡ無線（Multi Channel Access）

【特徴】

通常の無線のような一斉通信、携帯電話のような個別通信双方の機能が備わっている。

また、国内各地域に所在する中継局を経由するため、日本国内での遠距離通話も可能である。

型式	ＥＦ－６１９０	ＥＫ－６１７０Ａ
機種		
使用用途	病院災害対策室固定用	各班・派遣者可搬用
設置	室外アンテナと接続	携帯用アンテナ接続
チャンネル	1001	1011、1012、1013、1014、1015、1016

使用方法

① 電源キーを長押（約 2 秒間）

② 画面が点灯したら電波状態、電池残量の確認

③ 通話開始

（一斉通信）

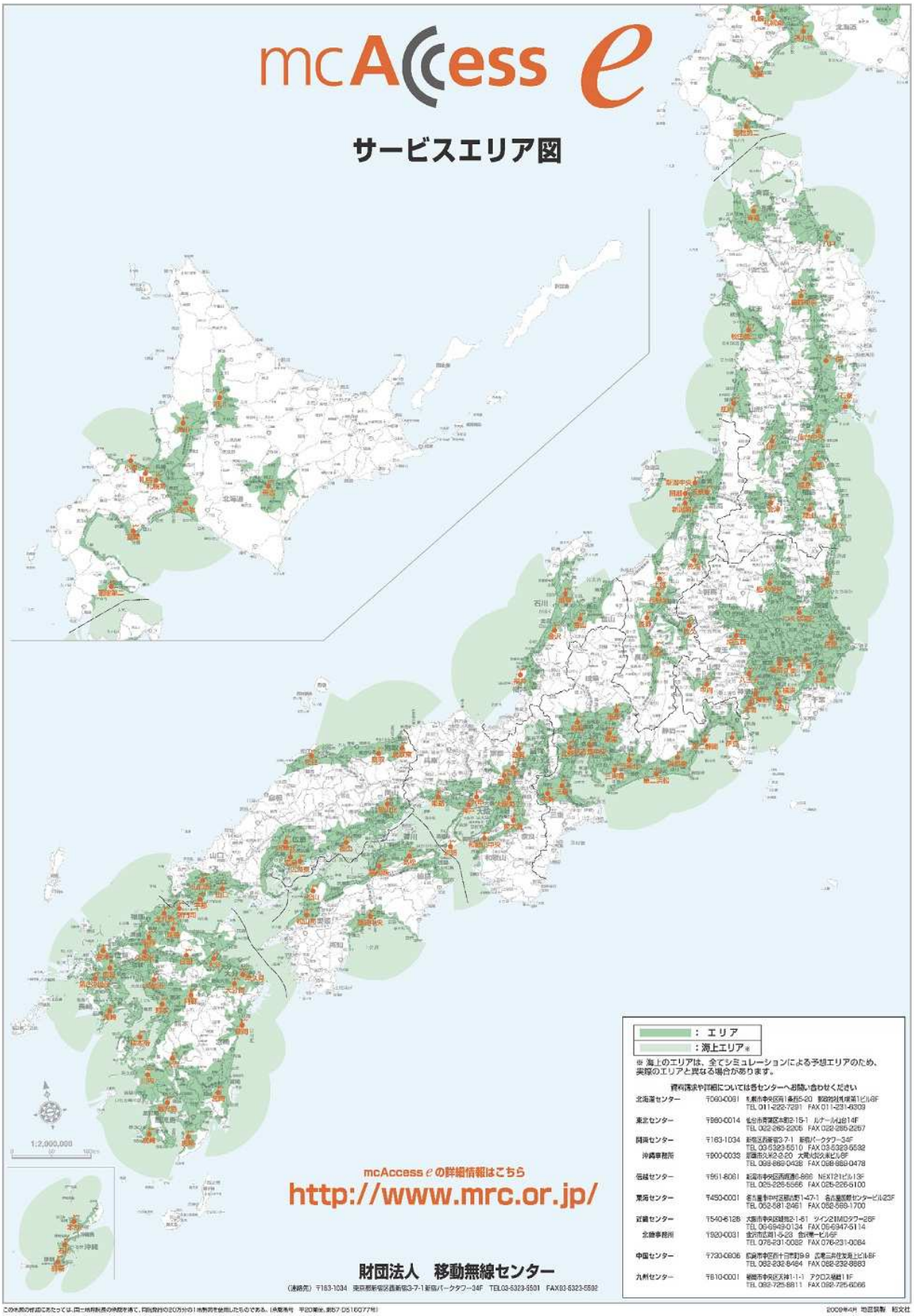
・モードキーを押し、全グループ一斉を選択

・プレストークスイッチを押し、画面表示が接続中から通話マークが点灯し、「ピッピー」という音が鳴ったら通話を開始。

（個別通信）

・ モードキーを押し、個別を選択

・ 相手先番号を入力し、プレストークスイッチを押す。

・ 画面表示が接続中から通話マークが点灯し、「ピッピー」という音が鳴ったら通話を開始。

MCA 無線使用可能地域